

災害犠牲者ゼロを目指した水防災への取り組み

常総市根新田町内会

はじめに - 「根新田地区」とは

茨城県の鬼怒川沿いを走る関東鉄道常総線の中妻駅東側に位置している田園地帯を有した地域で、現在の町内会加入世帯は102世帯です。2015年9月の「関東・東北豪雨災害」では根新田地区の上流約6kmの地点で鬼怒川の堤防が決壊し、地区の殆どが床上浸水の甚大な被害を受けました。

コミュニティ活動の拠点となっていた公民館も床上浸水1mの被害を受け、自然の猛威の前に為す術も無い人間の非力さに、ただ茫然とするだけの日々が続きました。水も引き、各地から災害ボランティアの皆さんが続々と支援に入り、泥だらけになりながら一生懸命お手伝いして下さる姿や温かい言葉に大いに励まされ、町民一丸となった復旧活動が始まりました。そして水害の怖さ、自然災害の猛威に立ち向かうべき、私達は「災害犠牲者ゼロを目指した災害に強い町づくり」に邁進する事となったのです。



関東・東北豪雨災害時の根新田地区

「ホームページ・わがまちなしんでん」の開設

「関東・東北豪雨災害」の前年8月、町内会の活動を内外に広く公開し、共に地域活性化の情報共有を願って、地域コミュニティサイト「わがまちなしんでん」の運用を開始しました。コンテンツは多岐にわたり、町内行事から防犯、防災活動に至るまで幅広い情報を掲示し

ています。特に防災関連は国土交通省の河川水位情報から鬼怒川、小貝川の各水位観測点の情報が見られる様に多くのリンクで構成されています。後述する防災ライブカメラもホーム画面から誰でもアクセスする事が可能で、大雨情報が発表されたり、大型台風が接近した時の訪問者数は平均400人を超えます。地域コミュニティ活動や防災情報の閲覧と共に自主防災活動の相談、出前講座の依頼など数多くの問い合わせも頂いています。また各地区の防災活動も学ばせて頂き、自主防災組織間で「いいとこ取り」をして、共に防災力向上に繋がられればと強く思っています。

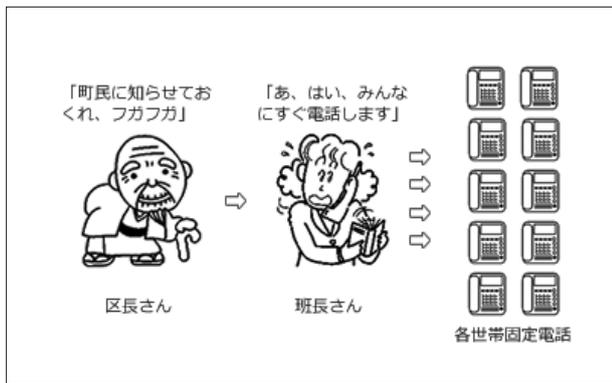


ホームページ「わがまちなしんでん」

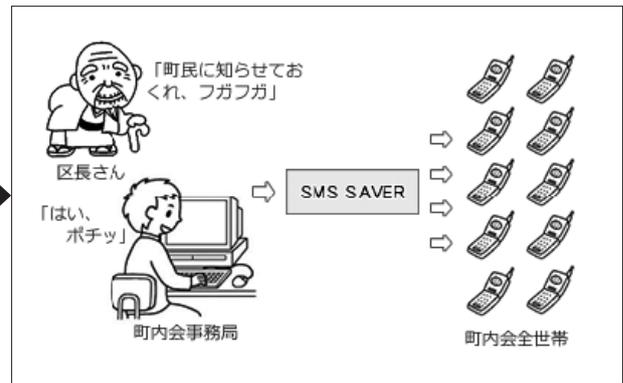
「SMS一斉送信システム」の導入

ホームページ「わがまちなしんでん」開設2か月後の10月には緊急時に役立つ情報伝達のツールとして携帯電話のショートメールを使った全町民への「SMS一斉送信システム」の運用を開始しました。

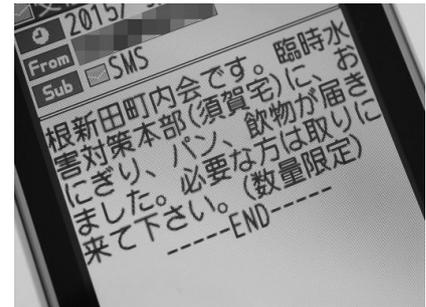
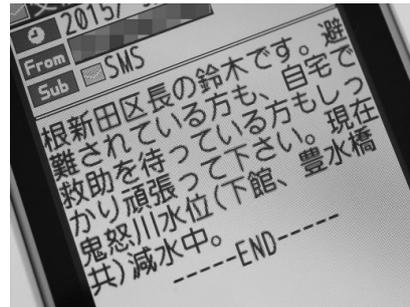
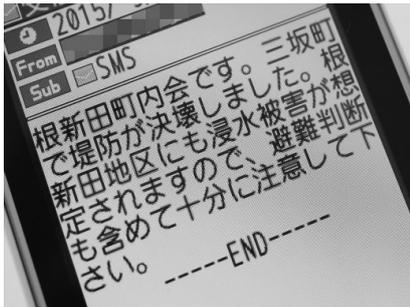
従来の緊急連絡方法は、自治会長から各班長を介して町民に電話または連絡網で行っていたので、不在時には連絡がとれない、班員の数によっては周知が遅くなる等の問題がありました。このシステムを活用するこ



従来の緊急連絡方法



SMSでの緊急連絡方法



「関東・東北豪雨災害」時に発信したSMS (抜粋)

とにより、緊急時には全世帯の携帯電話に一齐にSMS (ショートメール) が届くので、確実にリアルタイムな情報の共有が可能となりました。若い世代はLINEでの連絡手段もありますが、高齢者の中にはパソコンやスマホを使わない人もいる為、スマホでもガラ携にでも確実に届く連絡手段としてSMS の利用が最適と考え導入しました。

平常時には雨天予想時の行事態度決定周知やサークル活動の連絡等に活用していますが、災害発生時には緊急性の高い情報を町民に瞬時に伝達する事を目的としています。

「関東・東北豪雨災害」ではこのシステムを最大限に活用し、垂直避難者や各避難所、親類宅に分散した町民と町内会を結ぶ情報共有の手段として驚異的な効果を発揮しました。決壊前の鬼怒川の水位情報の発信から、決壊時の避難喚起、決壊後の地区内の浸水状況や帰宅の為の道路情報、支援物資の入荷情報、災害ボランティアの手配情報など、合わせて50通の緊急情報を浸水した事務局宅や水が引いた後の水害対策本部から町民の携帯電話に発信し続けました。地域としては従来から運用していたシステムを災害に活用したまでの事でしたが、テレビ報道でこの話題が地区内から生中継され大きく報道されました。これらにより「SMS一斉送信システム」が災害時の情報共有に大変効果的で

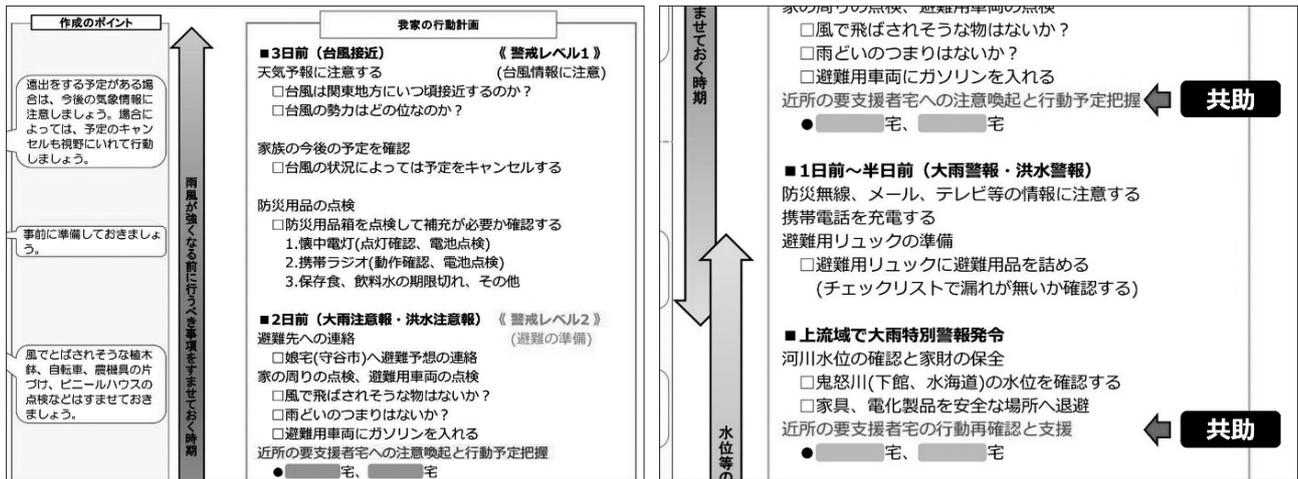
あることが実証され、現在全国で15以上の自治会がこのシステムを採用しています。

「マイ・タイムライン」の誕生

水害の場合は、台風の発生から河川の水位上昇、氾濫等と発災までのプロセスに予想がつくので、台風が接近してきた時の基本的なチェックリストの原案作成に取り組んでいました。時期を同じくして国土交通省下館河川事務所、常総市から「マイ・タイムラインのモデルを作って見ませんか」という提案があり、これぞ私達が望んでいたものとばかり“水害時の避難行動計画マイ・タイムライン”を作る取り組みを開始しました。



マイ・タイムライン検討会



実際のマイ・タイムライン

2016年11月の「第1回マイ・タイムライン検討会」を皮切りに完成までの計3回の検討会の中で、地域の災害の歴史や地形、ハザードマップから知り得る情報を学んだりしながら、2017年2月、「マイ・タイムライン」が完成したのです。

台風が日本に接近して来たら、「いつ頃上陸するのか？、台風の勢力は？」等を調べ、行政からの防災情報も参考にしながら、避難が完了するまでの行動を時系列に文字起こしたもので、決して難しいものではありません。

また「マイ・タイムライン」は家族の避難行動計画ですが、この計画に「近所の要支援者への声かけや支援」を組み込んでおくことにより、近所の助け合い（共助）によって「災害犠牲者を限りなくゼロ」にする事が可能となります。これで台風発生から時系列的に自分や家族が何をすべきかが分かり、慌てずに計画的な行動が出来るようになりました。

今や市民権を獲得し、急速に普及しつつある「マイ・タイムライン」、この誕生に深く関わった事は非常に感慨深い事であると同時に、発祥の地として更なる普及に積極的に取り組んで行きたいと考えています。

出前講座による社会貢献活動

「関東・東北豪雨災害」でのSMSによる情報共有の取り組みがテレビ報道され、これを皮切りに「逃げ遅れを防いだ町内会の先進的な取り組み」として報道各社が連日の様に取り上げ、全国的に広報されるようになりました。その後、各方面から講演会の依頼が相次ぎ2016年8月を皮切りに全国各地に出向き出前講座（防災講演会）を開催しています。

「関東・東北豪雨災害」の体験や教訓を生かした実



防災講演会（大阪市平野区）



モザンビーク職員への防災研修
（根新田公民館）



マイ・タイムライン作成講習会
（東京都日野市）



マイ・タイムライン作成講習会
（埼玉県熊谷市）

効的な防災活動を広く知って頂くと共に「マイ・タイムライン」発祥の地として、避難行動計画作成の必要性から「マイ・タイムライン」の普及活動を積極的に行っています。今では「逃げキッド」と呼ばれる教材を活用して、「防災講演会」と「マイ・タイムライン作成講習会」を併せた研修会も実施しています。全国各地からの講演依頼は長野県長野市、広島県福山市、岡山県倉敷市真備町等、今後の予定も含め70講演を超えるに至りました。本年2月には南アフリカモザンビークから行政職員の皆さんが研修に来られる等、共に学ぶ防災力向上の活動として、私達も共に勉強しながら今後も積極的に実施して参ります。

「無事ですタオル」で安否確認

発災時には迅速な安否確認が極めて重要です。根新田自主防災組織では、家族が無事なら黄色いタオルを玄関等に掲げ、周囲に無事を知らせる仕組みを採用しています。水害時には避難所からの帰宅直後や垂直避難での家族の無事をこのタオルを掲げる事によって近所に知らせる事も可能です。

特に「無事ですタオル」は大地震発生時の安否確認に大きな効果を発揮します。地震は突発的に発生するので、事前の対策は困難を極めます。

大地震発生時に極めて重要な「速やかな安否確認と救助」。根新田自主防災組織では「SMS一斉送信システム」と「無事ですタオル」を組み合わせ、全国でも類を見ないユニークな防災プロセスを構築しています。

地震が発生した時に自身や家族の安全を確保するのは当然ですが、“隣近所の安否を迅速に確認して救助する”といった行動をその時町内にいる人達が確実に実行出来れば、自主防災活動の第一の目的は達成されたと言っても過言ではありません。

ません。

そこで、震度5弱以上の地震が発生したら、在宅家族の安全を確保し、「無事ですタオル」を玄関先に掲げて、家族の安全を告知してから決められた隣近所の安否を確認する。要救助者がいれば「SMS一斉送信システム」を使って「〇〇宅で救助要請、町内にいる方は至急救援のこと」という内容のメールを町民の携帯電話に一斉に発信することで、安否確認から救助までを効率的に迅速に実施する事が可能となりました。2018年6月には「無事ですタオル大作戦」と称して第1回目の訓練も行い、その模様は当日のNHK首都圏ニュース845で放送されました。

また、根新田自主防災組織では「きめ細やかな女性の特性を自主防災に生かす」事を基本に、各班から選出された女性防災委員が組織の最前線で活躍しています。女性は近所の世帯構成やお年寄りの健康状態等をある程度把握している、いわば「安否確認のプロ」。発災時の安否確認には極めて重要な力となります。これも普段からの近所付き合いがあるからこそ出来る事と言えます。



災害発生時に掲げる「無事ですタオル」



安否確認訓練「無事ですタオル大作戦」





町民一時避難場所での総合防災訓練



防災訓練には子供達も楽しく参加



日本赤十字社支援による救急救命講習

防災啓発活動

■防災訓練の実施

根新田自主防災組織には現在7名の防災士がいて、各班から選出された18名の女性防災委員と共に全世帯対象の「総合防災訓練」、「無事ですタオル・安否確認訓練」を主導しています。各訓練での世帯参加率は毎回85%以上を維持し、仕事や高齢で参加できない世帯を勘案するとほぼ全世帯の参加となっています。防災訓練の後にはKJ法を使った反省会を実施し、更に実効的な行動が出来るようにPDCAを展開しています。

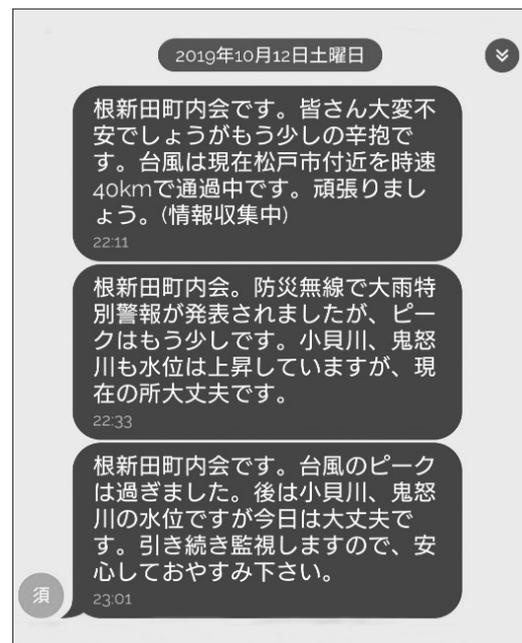
また日本赤十字社の協力により、救助時に必要な「救急救命」講習会を年1回開催しています。毎年繰り返し実施する事により全世帯の皆さんが救急法を体験する事になり、発災時は勿論の事、家庭内で救急が必要になった場合でも救急車が到着するまでの間に近所同士で命をつなぐ行動が出来るようになりました。

■「町民アンケート調査」の実施

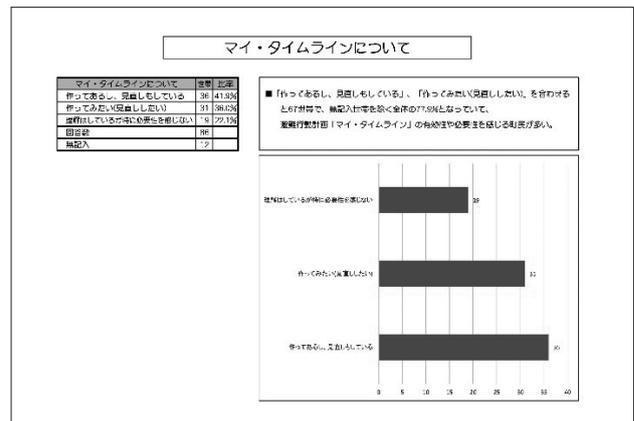
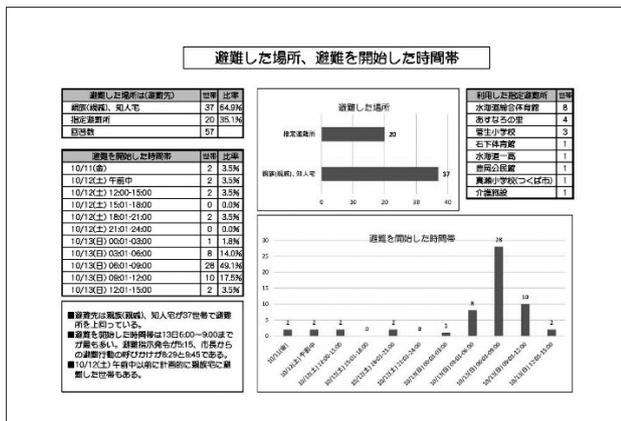
関東地方を中心に甚大な被害をもたらした台風19号。常総市でも鬼怒川の水位が計画高水位を4時間以上も超え、氾濫は無かったものの防災行政無線で市長が市民に直接避難を促す等、行政では常総水害の教訓を生かした対応を取りました。根新田町内会でもSMS一斉送信システムによる注意喚起情報を発信し、

情報を共有しました。

避難情報が発表された時、町民がどのような行動を取ったのかをみんなで共有することによって、今後の自助、共助に役立てたい事と、町民からの意見を「市民目線から見た防災行政」に反映して頂く事を目的として「町民アンケート調査」を実施しました。



台風19号通過時に発信したSMS



台風19号町民アンケート(抜粋)

調査項目は、

1. 家族は避難したか？
2. 避難した場所、避難を開始した時間帯は？
3. 自宅外避難を決めたきっかけは？
4. 自宅垂直避難を選んだ理由は？
5. 今後同様以上の台風が来たら、どうするか？
6. マイ・タイムラインについて？

等の項目について実施しました。アンケート回収率は99%に達し、町内会の調査という事もあって忌憚のない意見が数多く出されました。また調査結果は住民各世帯に配布すると共に、行政にも提出し、防災計画に役立てて頂く事としました。

■「防災用ライブカメラ」の設置

「関東・東北豪雨災害」での教訓から、2017年1月、町内東側を流れる千代田堀川の溢水（いっすい）状況を監視する防災カメラを事務局宅のベランダに設置し、その映像を町内会のホームページに自動転送、誰でも見られる様に公開しました。この映像を監視する事によって地区内に避難勧告が出る前に、住民自ら避難の判断が出来る事や、避難所や親戚宅にいても地区内への浸水の予測が付き、被災状況の把握や地区外からの帰宅の判断に大いに役立つ事になりました。

“SMS”、“マイ・タイムライン”、“防災カメラ”の連携により、

1. 大型台風が関東地方に接近、「SMS一斉送信システム」で注意喚起
2. 「マイ・タイムライン」に従って各々が計画的に行動
3. ホームページで、防災カメラの映像を確認し、避難行動に役立て
4. 「SMS一斉送信システム」で情報共有

という水害に備えた「災害犠牲者ゼロをめざす」プロセスが完成したのです。

■「長期停電用充電スポット」の開設

2019年9月に関東地方を襲った台風15号では千葉県各所で長期停電に見舞われました。その教訓も生かして、太陽光発電（蓄電）システムによるスマホ充電スポットを自主防災組織事務局宅に設置しました。これにより昼夜問わず40台程度のスマホ、携帯電話の同時充電が可能になりました。また防災ライブカメラやパソコンの電源も確保出来る事で、停電による影響も最小限に抑えられる事になり町民の安心に大きく貢献する事となりました。なおシステム設計から機材の設置まで全て自前で完成させたので設置費用も大幅に削減されました。



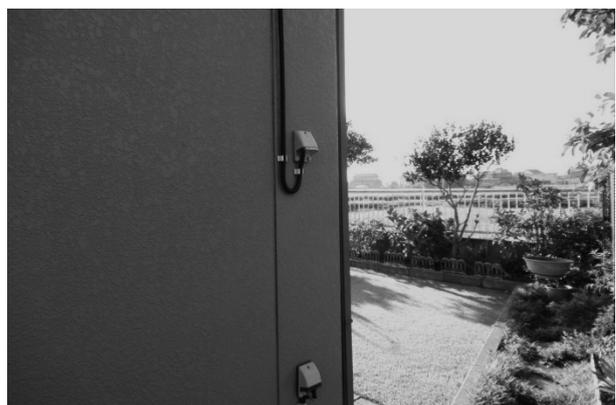
防災ライブカメラ



千代田堀川から溢水した状態



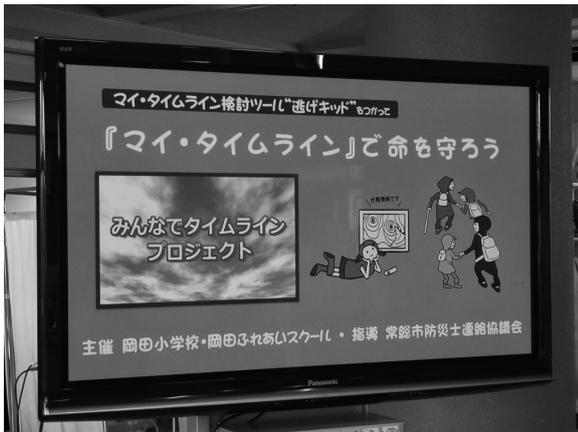
太陽光パネル（400W）



停電時に活躍する、屋外コンセント



水防訓練時での防災啓発活動



市内小学校での防災教室（岡田小学校）



市内小学校での防災教室（大花羽小学校）

■行政との連携と支援活動

常総市では防災士のネットワークづくりの柱として、2018年9月、市内在住の防災士有志で「常総市防災士連絡協議会」を発足させました。市民への防災啓発活動を始め、学校教育、自主防災組織の設立支援、マイ・

タイムラインの普及や会員のスキルアップ研修等に力を注いでいます。根新田町内会では当団体の発足・運営に深く関わり、各地区で行われる自主防災組織設立時の住民説明会では根新田自主防災組織の取り組みを紹介しながら、地域防災の必要性の啓発を行っています。また、マイ・タイムラインの普及にあつては各団体からの依頼や行政を通じた支援を積極的に展開し、常総市の地域防災力向上に大きく寄与しています。

■おわりに

■防災を自らの事として考える

私達は防災に対して余りにも国や行政に頼り過ぎてはいないでしょうか？

- ◇ハザードマップが配布されたのに、見る事もしない
- ◇行政が避難指示を出してくれるので安心だ
- ◇避難指示が空振りしたら行政に苦情を言う
- ◇避難所がどこにあるか知らない、事前に決めていない

発災時には自助、共助が極めて重要です。自分や家族が被災した時に、近所や地域の助け合いが無ければどうにもなりません。「自分は被災しない」という正常性バイアスを断ち切り、国民一人一人が日頃から防災意識を強く持って行動する事が今こそ本当に必要です。そして国民総力を挙げて災害に立ち向って行く事こそ「災害犠牲者ゼロを実現する」真の地域防災に繋がるのではないのでしょうか。

古き時代から言われて来た「向こう三軒両隣」の精神。都会ではすっかり影を潜め、地方でも世代の交代と共に希薄になりつつあるなかで、未曾有の災害を経験した私達は失われた事以上に地域の助け合いの大切さを改めて心に刻みました。自主防災の根底によどみなく流れる共助の精神、地域コミュニティをしっかりと後世につないでいく事が地域防災に携わる我々の責務でもあるはずです。

常総市根新田町内会